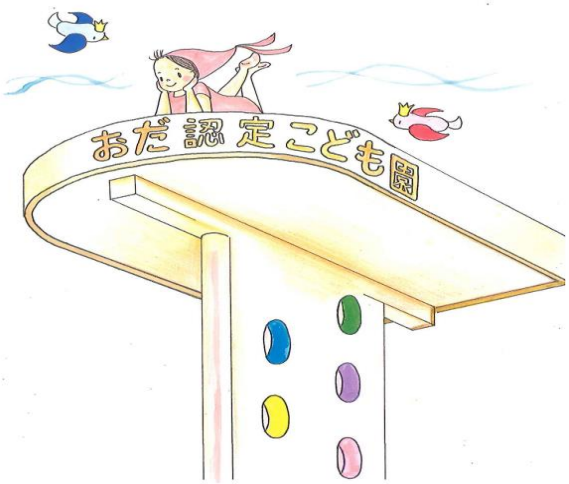
学校法人織田学園おだ認定子ども園

２０２２年度事業計画

令和４年度　乳幼児期に育む ESD 教育



内容

【はじめに】 2
【令和 4 年度事業計画概要】 2
【保育理念による今年の重点目標】 2
【目指す子ども像・職員像】 3
【保育時間等】 3
【人とつながるたくましさ】人とかかわる力を育むための大人の援助の在り方 4
【乳幼児期から育む ESD 教育】 4
【健康：基本的動作の定着・連続性のある動きへの挑戦】 5
【安心して働き続ける職場作り】 5
１．子どもの処遇 6
２．職員の数 6
３．行事予定 7
４．園児健康管理 7
５．職員健康管理 8
６．環境衛生管理 8
７．30 万円以上の支出 9
８．食育 9
９．安全管理 9
１０．研修計画 9
１１．職員の労働条件の向上に向けて 9
１２．特別保育事業 10
１３．施設管理 10
１４．保護者に向けて 10
１５．地域社会との連携 10
１６．評価 11

【はじめに】

自然災害、感染症、今まで経験のしたことのないような事が次々と起こっている社会の中で、自ら考え、周囲の人と協力し手を携えながら課題解決や未来的思考を持って、前向きに進んでいく力は、これからの社会を生きていく子ども達にとっての生きる力の基礎となる。その力を育むために、乳幼児における ESD 教育に焦点を当てて、地域、保護者とも連携しながら人との関係性の中での ESD 教育を推進していく。

令和４年度は、「人とつながるたくましさ」を重点目標に位置付け研修を積み上げより質の高い保育を目指し実践していく。

多摩市内の少子化が予想されていた以上に進んでいることにより、園児数は減少傾向である。特に３歳児の１号入園希望者はほぼいない状況になっていることから、満３歳児からの４年保育を前提とした保育計画の見直しに取り組む。また長時間保育のニーズは高まり、２号児に新２号児を加えると、１号児との園児数が逆転し始めている。このような時代の要請や社会のニーズをとらえ、質の高い教育と保育を利用者へ提供できる園であるために、事業計画を作成し確実な実行を目指し策定する。

【令和４年度事業計画概要】

教育保育目標
「元気でたくましい子」
「自分や人を大切に思える子」
「意欲のある子ども」
「感性豊かな子ども」

【保育理念による今年の重点目標】

【人とつながるたくましさ】

〇愛着関係を元に、自ら様々なことに取り組めるようになる。
〇環境や大人の援助を通して人とのつながりが持てるようになる。
〇集団生活の中で、自己発揮し認められることで自己を肯定的に捉えられるようになる。
〇幼児同志の繋がりの中で、自己主張のぶつかり合いによる葛藤から他者をより理解し合える体験ができるようになる。
〇伝える力と聞く態度が備わる。

【体のたくましさ】

〇保護者の理解と協力を得ながら、集団生活における感染症対策を定着させ、学びと保育の継続を目指す。
〇遊びや生活を通して、基本的な体の動きが身につくようなる。
（しなやかな動き、リズミカルな動き）
〇体を動かす心地よさが分かり、自ら取り組む。
〇日本の郷土料理を給食で提供し、食を通して日本の風土や食材を知り、興味を広げる。

【心のたくましさ】

〇子どもが主体的に、いろいろな表現活動を楽しめるようになる。
〇自然環境を生かして、不思議さや、思考を巡らせる事が楽しめるようになる。
〇自己決定する機会を通して、主体的な行動に自信が持てるようになる。
〇自ら興味のあることに挑戦し、上手くいかないことがあっても、繰り返し取り組もうとする気持ちが持てるようになる。

【目指す子ども像・職員像】

【目指す子ども像】

〇のびのびと体を動かす心地よさが分かるこども〇いろいろな体の部位を使って多様な動きを身に付ける子ども〇挑戦意欲のある子ども〇友だちと一緒にルールのある遊びを楽しめる子ども〇自分の目当てを持てるこども〇気持ちよい挨拶ができる子ども

【目指す大人像】

〇一人ひとりの子どもの心情に寄り添える大人〇子どもの頑張っている姿に共感し応援できる大人〇子どもの表面的な行動や言動に惑わされず、その裏にある本質と向き合える大人
〇他者と協働する事の出来る大人〇気持ちよい挨拶ができる大人

【保育時間等】

保育時間等
●開所時間：７：００～１９：００●教育標準時間：９：００～１５：００（年少１時）＊預かり保育：保育終了～１７：００（1 号認定）
●保育標準認定：月～土開所 11 時間（７：００～１８：００）教育時間は一日 4 時間とし年間 39 週を下らない
●付帯事業＊延長保育時間：１８：００～１９：００＊一時預かり事業（1 歳～就学前）

【人とつながるたくましさ】人とかかわる力を育むための大人の援助の在り方

現状と課題	コロナが発生してからの２年間は地域の繋がりも薄くなり、多様な人との関係も取りにくくなってきている。子どもが人間関係を学ぶ大事な時期に、周囲の大人や友達と一緒に過ごす園生活で、人との関わりが持ちにくい園児や、他者との関係で折り合いをつけることが難しく、心地よい人間関係を築くことができない園児が増えてきていることが今日的課題である。
取り組み方法	・未満児は、園児の実態にそって、ありのままの姿を受け入れながら、温かい関わりを通して人と一緒にいることの心地よさが分かる保育実践を行う。 ・仲間との関係性の中で、楽しさや葛藤体験を経験する。 ・自分の思いを表現したり対話をする中で、人とのつながりの大切さが分かり、折り合いをつけたり、協力して成し遂げた達成感を味わえるようにする。
実行計画	・５領域の人間関係のねらいと内容を理解したうえで、保育計画に明示する。 ・個々の子どもの発達に合わせて、実践・振り返り・評価・再構築を行う。 ・多くの人の視点で子どもを育めるように、担任だけではなく職員間で連携する。

【乳幼児期から育む ESD 教育】

現状と課題	生きる力の基礎を培う乳幼児教育は、周囲の人・物・事に興味を持ち課題に対してジブンゴトとしてとらえる総合的な力を育むことが大事である。ESD 教育は小学校以降の教育としてとらえられているが、乳幼児期にこそ、豊かな土壌を作り基礎となる力の定着が課題だと考える。
取り組み方法	・子どものモデルは大人であることから、ESD マインドを持つ保育者を育成する。 ・今まで行っていた保育活動に対して、改めて ESD 教育の視点で子ども達の育ちを記録する。 ・取り組みには多様な人とのつながりを大事に、保護者、地域の人も巻き込んで行う
実行計画	・園庭や地域の自然環境に興味を持って、探究する ・園外の専門家と共にシイタケ栽培や、野菜などを育てる。 ・段ボールコンポストを体験しゴミのリサイクルが持てるようにする。

【健康：基本的動作の定着・連続性のある動きへの挑戦】

課題	昨年度までの 3 年間で『体のたくましさ』について実践を積みあげ一定の成果を生み出すことができた。引き続き成果を持続できるように、計画的に体のたくましさの実践ができるようにすることを課題とする。
取組目標	各学年の年間計画に遊びや生活を通して、意図的に発達年齢に合わせた体の動きができるように保育者が意識し、計画に立てて行い評価する。（PDCA サイクル）
計画実践	・体幹を意識したからだの使い方・リズミカルな動きを誘発する環境設定を行う。 ・体の部位を使うことを意識し、しなやかな動きができるようにするために必要な活動を計画的に取り組む。

【安心して働き続ける職場作り】

１．キャリアデザインを描く

現状と課題	職員は、日々園児の最善の利益のために学びと実践を繰り返している。研究熱心な職員も多く保育の質を確保できていると感じているが、法人として適正な評価をし、評価に対しての対価を支払う仕組みが十分にできていなかった。
取り組み方法	・今年度からは、法人が新たに人事考課制度を取り入れ、評価者と被評価者が仕組みを理解し、職員一人ひとりが法人から求められている力を伸ばし、自身の専門性を高め、組織の一員として力を発揮でき、正しく評価されるように取り組む。
実行計画	令和４年３月　法人本部より派遣されたタナベコンサルタントによる、評価者・被評価者研修を受ける。 令和４年５月園長面接を行い、自身の目標・求められている力を共有する。 令和５年１月新たなシステムによる人事評価を行いフィードバックする。

１．子どもの処遇

園児数

	１号	２号	３号	合計
０歳児			６	６
１歳児			１８	１８
２歳児			１９	１９
満３歳児	２			２
３歳児	３８	２２		６０
４歳児	３２	２８		６０
５歳児	４０	２９		６９
累計	１１２	７９	４３	２３４

２．職員の数

	常勤	非常勤
園長	１	
副園長	１	
教頭	１	
主幹保育教諭	２	
保育部保育教諭	１４	１７
幼児部保育教諭	１０	１０
小計	２７	２７
栄養士	２	１
看護師	１	
事務	２	２
調理	１	７
小計	６	１０
バス運転手	１（兼）	３
バス添乗	０	６
合計	３３	５７

３．行事予定

月	幼・保共通	幼児部	保育部	
4 月	入園を祝う会	保護者会 年長園外保育	親子の集い	懇談会
５月		保護者会総会 父親親睦会	2 歳親子遠足	
６月	おだキッズデー おむすび遠足	プール開き 同窓会	個人面談	
７月	夕涼み会	お泊り保育		
８月				
９月	移動動物園・	移動動物園 保護者会	保護者会	
１０月	作品展	芋ほり遠足 サンマ一本焼き	きりん組遠足	
１１月		みかん狩り	保育参観	
１２月		餅つき大会		
１月		観劇会		
２月		子ども会	個人面談	
３月	卒園式	お別れ遠足		

４．園児健康管理

項目	頻度等
園児定期内科健康診断（1 号認定）	年　２回（5 月・9 月）入園前検診
園児定期内科健康診断（2 号・3 号認定）	年　2 回（5 月・9 月～10 月）・新入園時
園児 0 歳児健康診断	年 12 回（毎月第 3 金曜日）
園児身体測定（０・１・２歳児）	年 12 回（毎月月初め）
園児身体測定（３・４・５歳児）	年　3 回（学期 1 回）
園児歯科健診	年　1 回（6 月）

５．職員健康管理

項目	頻度等
職員定期内科健診	平和予防医学グループ平和診療所　により年　1 回（5 月）
職員便細菌検査（給食室・調乳担当者）	（株）日本環境衛生研究所　により 年 12 回（毎月）以上
職員便細菌検査（保育部常勤職員）	年 12 回（毎月）以上
職員便細菌検査（保育部 012 歳非常勤）	年　2 回（5 月・11 月）以上
職員便細菌検査（上記以外の全職員）	年　1 回（7 月）以上
ストレスチェック（常勤対象者）	年　1 回（10 月）＊学園本部管理

６．環境衛生管理

項目	頻度等
園児使用午睡布団乾燥	ライトサンクリーン　により 年 24 回（毎月 2 回）＊洗い　年 1 回（3 月）
園児使用絨毯クリーニング	ライトサンクリーン　により 年　1 回（8 月）
エントランス等マット交換	サニクリーン　により 年 24 回（月 2 回）
グリストラップ定期点検	AIC　により 年　1 回（11 月）
受水槽清掃	（株）コーシンビルサービス　により 年　1 回
全館清掃	アピアにより 年　1 回（3 月）

７．30 万円以上の支出

内容	金額
給食設備	1,500,000 円
年末清掃	750,000 円
コロナ対策	500,000 円
修繕	1,000,000 円
PC 環境	300, 000 円
求人広報	300,000 円

８．食育

年長組のチャイルドクッキング

郷土料理を取り入れた献立を提供し、保護者へも和食の良さを知らせる。

旬の食材を提供するとともに、子ども達にも季節の野菜を知りその特徴を分かりやすく伝えたり、食べる事で体にどのような効果があるのか知らせたりし、積極的に食に興味を持ち食べる意欲につながるようにする。

【旬の食べ物に触れて旬を実感する体験】

＊栽培経験　（ジャガイモ・大根・夏野菜等）

＊ミカン狩り・サツマイモ堀・さんまの一本焼き

９．安全管理

非常災害時の避難訓練（毎月）

引き渡し訓練の実施（年１回）

不審者訓練　　（年２回）

１０．研修計画

外部講師を招いて保育実践のビデオカンファレンス（年１１回）

園内研修（5 月・7 月・1 月・3 月）

キャリアアップ研修に積極的に参加する

１１．職員の労働条件の向上に向けて

① 職員の有休について取得率７０％以上継続

②計画有休１日以上取得

③処遇改善費を活用して、職員が自分のライフスタイルに合わせ、見通しを持ったキャリアアップが出来るように支援する。

④職員と面談を年に１回以上行い、職員の意欲や希望を受け取り、適切な研修を受けられるようにしたり、キャリアデザインを引き出せるようにしたりする。

⑤すべての正規職員が休憩時間を保証できるようにする。

⑥ノンコンタクトタイムが取れるようにする。

１２．特別保育事業

① 延長保育事業　原則として１時間延長保育を行い１９時までとする。

② 一時預かり事業

１３．施設管理

①植栽の剪定

１４．保護者に向けて

①ホームページに保育日誌を掲載

②クラス保護者会

０・１・２歳児は年２回

３歳以上児は年２回　昼の部と夕方の部の２部制にし、２号認定の保護者が参加しやすいようにする。

③ 個人面談

年に１回以上実施する

④お知らせ

＊家庭通信毎月発行

＊保護者へは、ホームページを効率的に活用し、日常の様子は視覚的に伝えていく。

＊保健だより毎月発行

＊給食だより毎月発行

＊献立表毎月発行

＊ホームページで保育日誌をを配信

＊０・１歳はバスキャッチの連絡アプリで日常を写真と文章で個別配信する。

⑤動画により保育を伝える

１５．地域社会との連携

西落合小学校・大松台小学校・貝取小学校と学校連絡協議会で情報共有する。

西落合小学童クラブとの夏休みボランティア活動受け入れ

１６．評価

① 外部評価　学校評価委員による会議を年３回以上行う　年度末には評価委員による評価を実施　　今年度は第三者評価受審実施

② 保護者による評価

＊１年に１回利用者アンケート

＊行事ごとの評価アンケート